

2019年7月16日

厚生労働大臣（依存症対策推進本部長）根本匠 様

担当課： 医薬生活衛生局 監視・指導麻薬対策課

社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 依存症対策推進室

（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事長 井村伸正 様

依存症問題の正しい報道を求めるネットワーク
特定非営利活動法人 全国薬物依存症者家族会連合会
特定非営利活動法人 アスク（アルコール薬物問題全国市民協会）
公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会
特定非営利活動法人 全国ギャンブル依存症家族の会
関西薬物依存症家族の会

「ダメ。ゼッタイ。普及運動」のポスターに関する要望



私たちは、依存症への正しい理解を広め、回復を応援する社会をつくるために活動している団体です。

今年の「ダメ。ゼッタイ。普及運動」のポスター（左）を見て非常に驚きました。「薬物乱用の行き先をご存知ですか？」と、どの方向にも「破滅」しかないことを強く訴えています。

主催者の方々にしていただきたいことがあります。

このポスターを、薬物をやめられずに苦しんでいる乱用者や家族が見たらどう感じるか、という視点で見ていただきたいのです。

…「絶望」しかありません。その結果、追い詰められて、ひたすら「自己破壊」に向かうしかなくなります。

では一般の人はどう感じるのでしょうか？

…「薬物乱用者は破滅を承知でやっているアホ。自業自得だから、助ける価値もない」との偏見を募らせる可能性が高いと、私たちは考えます。

実際に、各地で薬物依存症リハビリ施設への反対運動が起きていますし、薬物を使用した芸能人を寄ってたか

ってさらし者にし、出演作品の回収など過剰な自粛も起きています。ゼッタイ排除の動きです。こうして、薬物乱用撲滅の名のもとに、乱用者への過剰な社会的制裁・排除が助長されています。それは実際に、早期相談・治療・回復・社会復帰を阻害する大きな要因となっているのです。

これは、国連をはじめとする世界の流れ——薬物問題を健康問題ととらえ、非犯罪化して重篤化を防止——にも反します。わが国で2016年に施行された「再犯防止推進法」——社会において孤立することなく、国民の理解と協力を得て再び社会を構成する一員となることを支援することが目的——にも反するものです。

上記の理由で、私たちは以下の対応を強く求めます。

記

1. 2019年「ダメ。ゼッタイ。普及運動」ポスターの掲示中止。
2. 来年度以降は「ダメ。ゼッタイ。」の路線を見直し、相談や回復につながるようなポスターを作成・掲示すること。
3. International Day Against Drug Abuse and Illicit Trafficking を、「国際麻薬乱用撲滅デー」ではなく、正しく「国際薬物乱用・不正取引防止デー」と訳すこと。